

平成 26 年度 学校評価書

平成 27 年 2 月 20 日
浜松学院大学付属幼稚園
園長 金子 容子

1、本年度の重点目標

- ・感性豊かな子どもの心を育む（影絵知識の習得と技術向上を図り、全教員で影絵人形劇の製作に取り組む）
- ・子どもの発達理解とカリキュラムの見直し
- ・活動環境の創意工夫と安全管理の徹底

2、自己評価結果に対する学校関係者評価

※評価は A（十分に成果があった） B（成果があった） C（少しの成果があった） D（成果がなかった）の数値で表すこと

評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	保育の計画性 ・園の教育課程を把握し指導計画を作成する ・指導計画に基づいた保育準備および環境構成を行う	・学年研修でカリキュラムや保育活動の説明や具体的な計画を共有した ・全体研修で教育課程の解釈と保育実践内容を話し合い共通理解を行った	・担任 2 人制のクラスは補助教員にも活動の詳細や教育的意図を伝達する場を設ける ・研究保育の重要性と実施の仕方について検討する	・付属幼稚園が毎週 1 回実施しているリズム運動は、子どものたくましくしなやかな体作りの素地となっているので、今後も力を入れて取り組んでいくと良い	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の保育を振り返り、子どもの姿と照らし合わせて評価する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の反省は、日案だけでなく個人観察記録で丁寧に振り返ることで、活動のねらいに関する反省だけでなく、一人ひとりの姿に合った評価ができるようにした 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの発達や育てたい力を考察するため、全体研や学年研での話し合いを充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人観察記録や日々の学級通信などは子どもをよく見て理解している証であり素晴らしい 	
A	<p>保育の実践力と環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全を確保する ・子どもの健康管理と衛生環境を整える ・子ども1人ひとりに応じた適切な援助を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震対策として地震津波警報機を設置し迅速な対応を常に意識している ・保育中の防災訓練を毎月実施 ・コース登降園中および預かり保育時間帯の防災訓練を年1回実施 ・各クラスおよび園バス2台に除菌セラ水や霧化機を設置し、除菌清掃を毎日行っている ・子どもの言動や内面をきちんと受け止め、本人や他児が肯定的に容認できるようにする ・個別支援などが困難な場合は専門家の訪問を複数回利用した 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は常に危機管理を持ち、咄嗟の事態にも冷静な判断ができるよう訓練を重ねる ・コース登降園中の防災訓練は日頃の訓練が必要なので年間3回は実施した方がよい ・霧化機と併用して保育室内の拭き清掃をより丁寧に行う ・保育室の霧化機が未設置のクラスには次年度設置する ・子どもの問題は他教員にも相談し、共に解決できるような話し合いを継続していく ・臨床心理士や保健師からの助言を保育に取り入れて子どもの成長につなげていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災対策のさらなる強化および防災用品の充足が求められている ・コース登降園中の防災訓練の実施回数を増やしたり、保護者に通園ルートの危険個所を実地理解してもらったりするとより効果的 ・子どもの安全管理は大切にしながらも、子どもは失敗から会得する経験も必要だということを、幼稚園と家庭が認識していると良い ・教員が子どもの理解に努めていることがよく分かる 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態や状況に適した環境構成を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達理解を共有するために教員が学び合う園内研修会を設けた ・子どもの思いや発見を大切にしながら遊びの環境を構成していく ・子どもの遊ぶ空間と時間を保障する 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室環境には季節感を取り入れて、壁面構想や展示物の選別を教員が創意工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解と対応は万全で保育に臨みながらも、必要に応じて子どもの自由な姿を見守りながら理解することも大切である ・園舎がきれいなので掲示や園児の作品展示も工夫するとより良い 	
A	<p>教師の資質とチーム力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としての能力や人間性を満たしている ・決められた役割や業務は責任を持って行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質や保育姿勢に問題がある場合は、具体的な改善策を伝えた ・職員集団が保育力向上と相互の協力体制が図れるような配慮を行う ・役割分担は平等にし、各業務が効率的に遂行されているか適宜確認した 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や業務に関することは何でも気軽に相談できる雰囲気在今后も大切にしていく ・教員が相互に切磋琢磨しながら成長し、教師としての魅力を高めていく ・協働作業の中で生まれる充実感を各自が味わうことで、自然な助け合いができることを大切にしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員それぞれが異なる人間であるからこそ、各自が自由な発想で自己発揮しながら保育を展開できることが理想である ・教員がひとつになって影絵人形劇の製作に取り組み創り上げたことはとても良い経験である ・もちつき大会等の行事は子どもが楽しめるための段取りや細かな準備、連携、気配りなどが行き届いていた 	A

B	<p>保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子やクラス集団の成長および教師の意図等を学級通信で伝える ・個人面談やクラス懇談会は事前に伝達内容を検討する ・保護者からの意見や要望を受け止め適切な対応をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信やおたより帳の内容の充実を図るため、内容や発信回数を確認し合い、より良い書き方を模索した ・個人観察記録から個人面談に必要な項目をとりあげ、保護者に具体的な姿と成長の見通しを持った話合いを行った ・保護者から相談を求められた際は、迅速かつ丁寧に対応し、保護者の思いを聞き入れながら検討する ・要望に応じ園長、教頭、担任などが適宜面談を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信の内容は教師の人間性や価値観が現れる内容にするため、今後も子どもの姿をとらえる着眼点を確かなものにしていく ・クラス懇談会は保護者と担任が落ち着いた環境で話し合いができるよう配慮する ・保護者の思いに共感しながらコミュニケーションを図ることを今後も大切にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信がほぼ毎日発行されていることが素晴らしい ・付属だより地域版のコメントが分かりやすく的確で良い 	A
B	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園に対する問い合わせや訪問者に正確な対応ができる ・就園前の親子支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・先方の意向を理解して明確かつ迅速な回答をする ・園内の行事、システム、未就園児活動に関する案内を全職員に配布し、共通理解できるよう配慮した ・毎週木曜日の「どんぐりクラブ」および次年度入園児対象の「いちご学 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室で仕事を行いながら、電話や来客の対応を学ぶ ・園内外の事柄を全職員が幅広く理解することが必要だという意識を教員が自覚する ・未就園児活動の充実を図り、近隣の親子が楽しめるよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・就園前の親子支援が、地域の健やかな成長につながることを期待 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と交流する (地域への発信) ・地域の自然や施設や人々を必要に応じて活用する 	<p>級」の企画内容を新たに実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣への定期的な挨拶を実施 ・「附属だより地域版」を毎月発行し園の状況や教育内容を発信する ・もちつき大会等の行事に地域の方を招待し交流を図った ・身近にできる環境活動を実践し、地域や社会の役に立つ喜びを味わう場を設ける ・近隣で田植えや稲刈りの経験をした 	<p>な企画および地域の子育て支援事業に貢献できる活動を継続する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣地区の敬老会参加や近隣小学校への園児訪問など互いに交流できる場を増やしていく ・エコ活動に参加することで、自分の働きが社会の役に立っていることを知らせる ・栽培や収穫経験から食への関心を深め、可能な範囲で食育活動を啓蒙していく 	<p>する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で異年齢の子ども集団が遊ぶことができるのはとても貴重な場である。そのような場が自然発生的に生まれている登降園集合場所（公園）は大変良いコミュニティーである 	
B	<p>研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己課題を持って積極的な研修参加をしている ・教育図書を積極的に熟読し向上しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に有効な研修会や、子どもと親の支援につながる勉強会を適宜紹介し職員の参加を求めた ・教育図書記録カードを活用し、専門書や育児書などを職員に紹介し合って各自が選択した本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が苦手とする分野に関する講習会を園内で開き、全職員の学びと糧とする ・文献から教育に関する視野が広がり、保育実践および保護者対応がより深みあるものになるよう努力する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が書籍などからも自己研鑽しようとしていることが良い ・互いの学びを職員間で共有し合えることが良い 	A

				<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな現代社会に適応して 幼児英語の導入も良いのでは 	
B	外部アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に行くことを楽しみにしている ・規則正しい生活習慣を身につけている ・人とかかわる力が育ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを温かく受け止めながら楽しく安心した園生活を作る ・子どもが自分でできた喜びを味わい充実感を得られるようにする ・教師や友達との心の交流を様々な場面で体験させていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの遊びや生活を、子どもの発達視点で適切にとらえ構成していく <p>※詳細はアンケート結果報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果報告や回答が大変丁寧で誠実である ・幼稚園として大切にしている理念を明確に打ち出している 	A